

仏岩と仏教の六人の守護者

この崖は、仏の姿をした岩が並んでいたもので、仏岩と名付けられた。しかし、地震で崖の表面が崩れ、仏の姿は消滅した。この岩壁は、徳川幕府を築いた徳川家康（1543～1616）の墓が位置する同じ山の東側にある。

浅い洞窟の前にある六体の石像はすべて仏教の守護神である。左から右に、四天王の一人帝釈天。梵天、不動明王、四天王の二人。帝釈天は四天王の司令官であり、人間と神を悪から守ってくれる。梵天は、しばしば4つの頭で描かれており、歴史的仏陀である釈迦牟尼の保護者である。帝釈天と梵天は、しばしば仏陀と三体で、芸術と彫刻で表現される仏陀の生活の場面で一緒に登場している。

不動明王は密教の教主「大日如来」の化身であり、その激しい外観にもかかわらず、仏教の忠実な人の擁護者である。不動明王の正面と中央にある知恵の王たちは、中禅寺の五大堂と輪王寺の大護摩堂での崇拜の重要な対象となっている。日光の神社や寺院の境内で多くの不動明王がみられる。